2018年度
第2四半期決算説明会
（2018年4月～2018年9月）

開催日：2018年11月22日
（東京都文京区小石川一丁目28番1号）

ジオスター株式会社

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

目次

1. 2018年度上期決算概要（P3～P13）

2. 2018年度業績予想（P14～P17）

3. 参考資料（P18～P27）

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

1. 2018年度上期決算

・2018年度上期の事業環境 ・・・・・・・・・・・・P4
・2018年度上期決算の概況 ・・・・・・・・・・・・P5
・上期連結決算概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P6
・受注高・受注残の推移・・・・・・・・・・・・・・・・P7
・連結貸借対照表概要・・・・・・・・・・・・・・・・・P8
・連結主要経営指標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・P9
・上期キャッシュフローの概要 ・・・・・・・・・・P10
・設備投資・減価償却の推移・・・・・・・・・・・P11
・2018年度・剰余金の配当 ・・・・・・・・・・・・P12
・配当金の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P13

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

2018年度上期の事業環境

●土木業界について、公共投資は底堅く推移
●先行きについても補正予算の効果を受け、底堅く推移することが見込まれる。

→ 大型プロジェクトを含めたセグメント製品の高レベルの生産継続

●建設技能労働者不足

→ 外注労務費増加

●輸送従事労働者不足

→ 輸送費の上昇が継続

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

2018年度上期決算の概況

・リニアを中心とした大型物件の確実な受注に向け営業活動強化実施
・大型セグメントから中・小型セグメントに移る中、西日本を含めた全工場の稼働率最大化に向けた全社生産調整、徹底した原価低減対策の実施

・東松山工場・茨城工場
大型セグメント（東京外かく環状道路）主体の製造から中・小型セグメント（羽田際内、相鉄東急等）混合の製造へ移行。
ヤード保管中のセグメントの出荷は開始されるも遅れ気味。

・金谷工場
横浜湘南道路セグメント、中・小型セグメント、その他土木製品の生産継続。

・海外子会社、マレーシア工場
安定的収益確保に向け、営業強化、品質管理・生産管理等の事業基盤の整備・強化を継続実施中。

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

上期連結決算概要

新規物件の確実な受注に努めるとともに、全工場の稼働率最大化を目指した全社生産調整による工場間の連携強化や、徹底した原価低減への取組みなどにより、収益力向上に努めてまいりましたが、当第２四半期は大型案件の売上が減少したことにより前年同期比減収減益となる。

（単位：百万円）

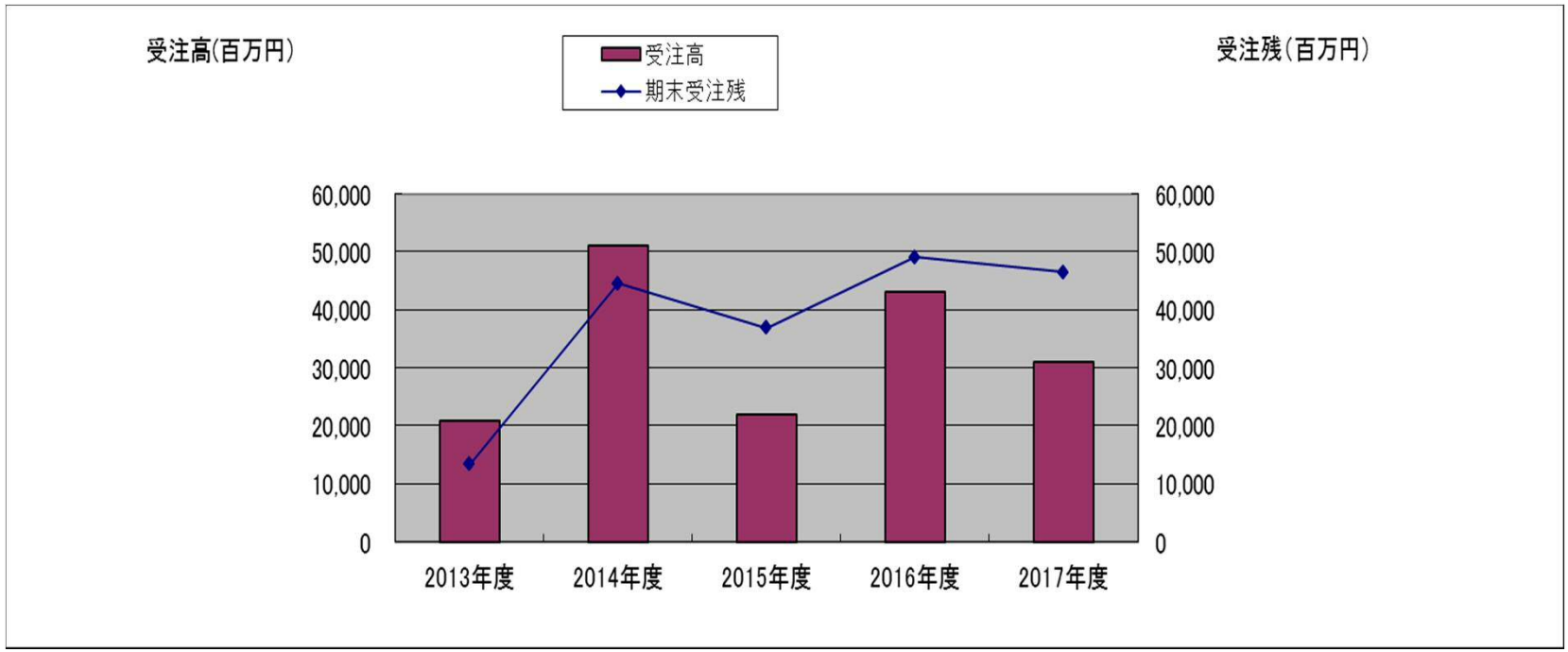
	前第2四半期 累計実績 A	当第2四半期 累計実績 B	前期比 C=B−A	増減率 C/A	2018年度 第2四半期 業績予想公表値 2018年 5月15日
売上高	14,263	13,434	△ 828	△ 5.8%	15,100
営業利益	1,365	966	△ 399	△ 29.2%	950
経常利益	1,363	964	△ 399	△ 29.3%	950
特別損益	△ 61	△ 4	57	―	―
親会社株主に帰属する四半期純利益	900	643	△ 256	△ 28.5%	650

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

受注高・受注残の推移

（単位：百万円）

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
受注高	20,795	51,044	21,890	43,152	31,097
期末受注残	13,402	44,560	36,926	49,034	46,491



© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

連結貸借対照表概要

（単位：百万円）

科　　目	前会計年度末 A	当第2四半期末 B	増減額 B−A
現預金同等物	1,851	2,829	978
受手・売掛金	8,744	3,984	△ 4,759
たな卸資産	8,371	10,293	1,922
未収入金	3,617	2,252	△ 1,364
その他	287	508	221
流動資産合計	22,871	19,869	△ 3,002
有形固定資産	9,485	9,188	△ 296
投資有価証券他	1,475	1,515	39
固定資産合計	10,960	10,704	△ 256
資産合計	33,832	30,573	△ 3,258

科　　目	前会計年度末 A	当第2四半期末 B	増減額 B−A
長短借入金	4,018	2,654	△ 1,364
支手・買掛金	5,738	4,235	△ 1,502
未払法人税等	797	416	△ 380
その他	4,909	4,768	△ 140
負債合計	15,463	12,075	△ 3,388
自己資本	18,332	18,504	171
その他有価証券評価差額金	490	499	8
非支配株主持分	36	△ 6	△ 42
純資産合計	18,368	18,498	129
負債純資産合計	33,832	30,573	△ 3,258

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

連結主要経営指標

	前第2四半期	前会計年度	当第2四半期
自己資本当期純利益率（ROE）	5.4%	12.6%	3.5%
総資産経常利益率（ROA）	4.4%	10.4%	3.0%
営業利益率	9.6%	10.1%	7.2%
D/Eレシオ	0.16倍	0.22倍	0.14倍
自己資本比率	56.3%	54.2%	60.5%
有利子負債残高	2,760百万円	4,018百万円	2,654百万円
期末総資産	30,329百万円	33,832百万円	30,573百万円
期末自己資本	17,063百万円	18,332百万円	18,504百万円

*「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号　平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

上期キャッシュフローの概要

営業キャッシュフロー増加により借入金返済13億円、配当金支払5億円を行う。

（単位：百万円）

	前第2四半期累計期間 A	当第2四半期累計期間 B	増減額 B−A
税金等調整前四半期純利益	1,301	960	△ 341
減価償却費	663	612	△ 50
法人税	△ 760	△ 745	15
その他営業キャッシュフロー	1,239	2,401	1,161
投資キャッシュフロー	△ 919	△ 404	514
フリーキャッシュフロー	1,524	2,824	1,299
借入金等　調達・返済	△ 525	△ 1,334	△ 808
支払配当	△ 421	△ 499	△ 78
その他	△ 6	△ 11	△ 4
現金同等物　増減額	570	978	408
現金同等物　期首残	1,493	1,851	357
現金同等物　期末残	2,063	2,829	765

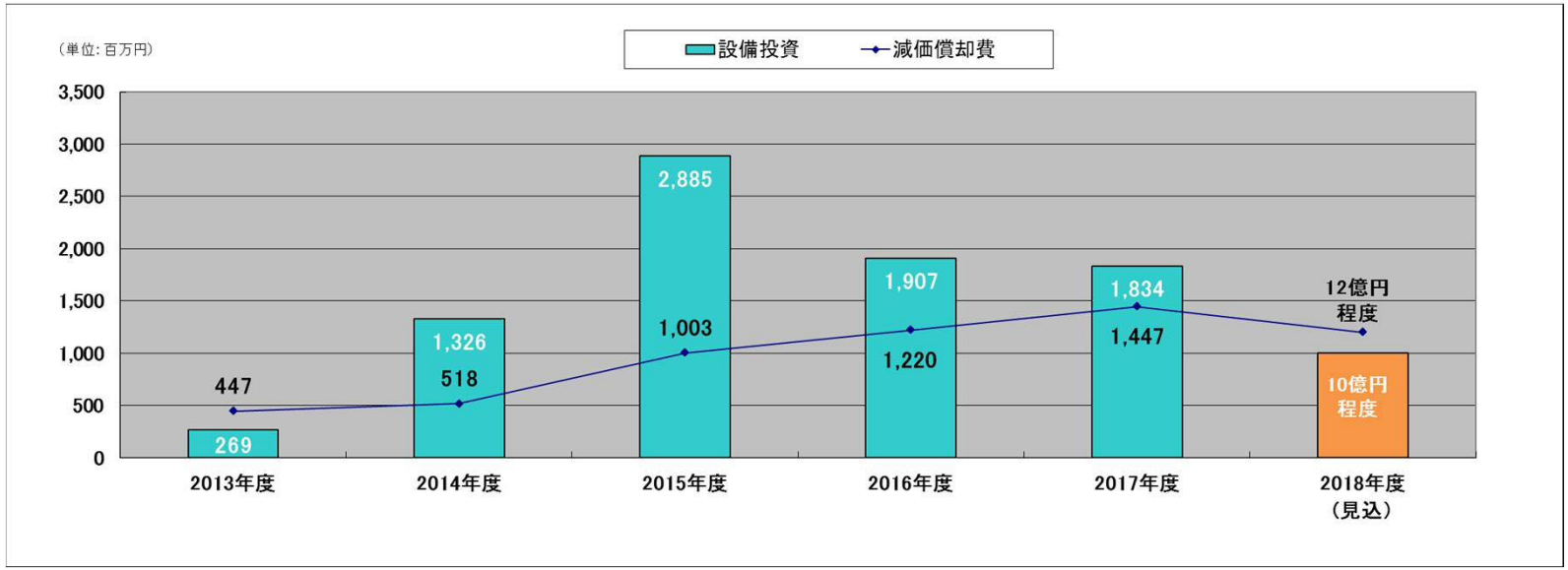
© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

設備投資・減価償却の推移

関東圏の大型セグメント生産対応に向けた設備増強は2017年度で完了、2018年度の設備投資は老朽更新が中心となる。

（単位：百万円）

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度（見込）
設 備 投 資	269	1,326	2,885	1,907	1,834	10億円程度
減 価 償 却 費	447	518	1,003	1,220	1,447	12億円程度



© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

2018年度・剰余金の配当

剰余金の配当につきましては、当社の事業特性から売上高が下期に集中する季節要因があり、収益状況から期末配当の1回とすることが財務上も適切であると考えておりますが、平成31年3月期においては、当該季節的変動が少ないことから、**1株につき5円**の中間配当を実施することと致しました。なお、期末の配当予想については、引き続き未定とさせて頂き、確定次第速やかに公表致します。

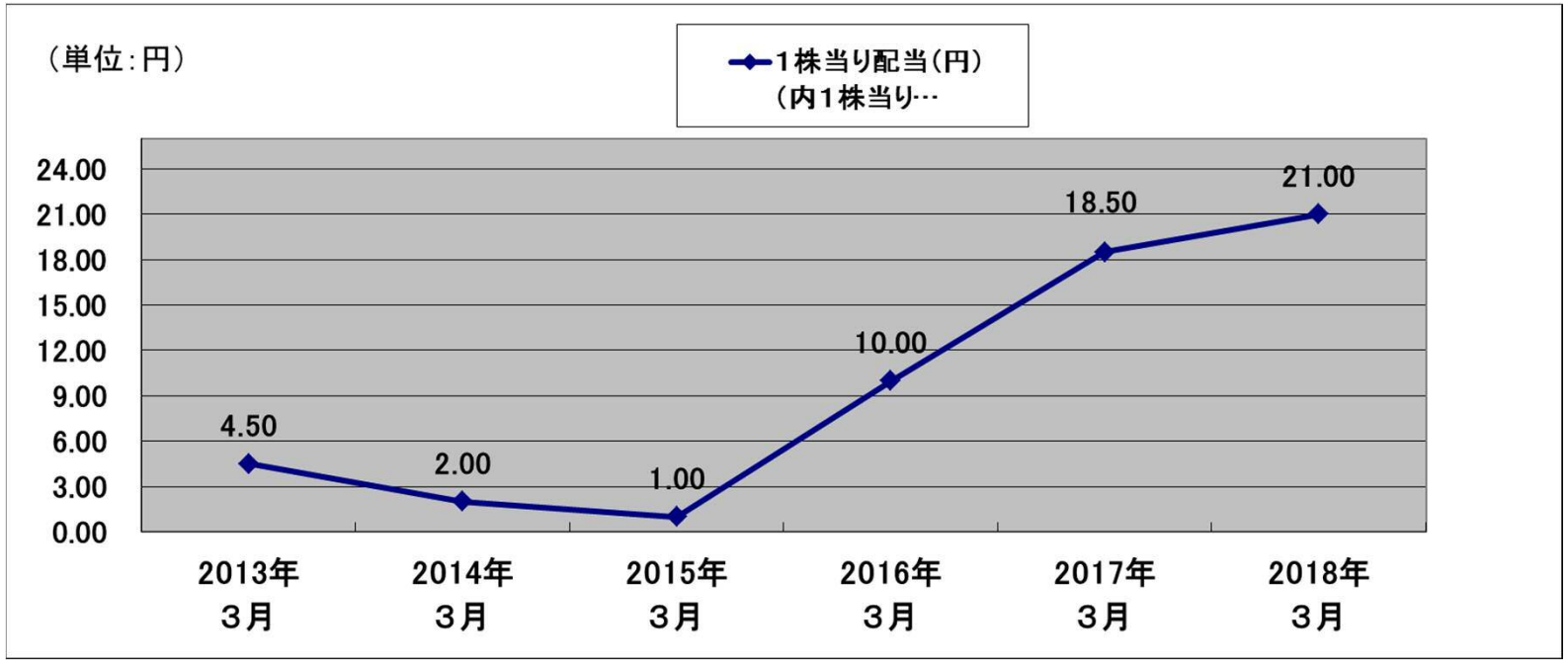
【利益配分に関する基本方針】

当社グループは適正な利潤の確保に努め、健全な発展と永続性を目指し、収益状況に対応した安定適性な配当維持に努力することを基本方針としております。また内部留保を充実し、企業体質の強化と将来の事業展開に備えたいと考えております。

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

配当金の推移

決算年月	2013年 3月	2014年 3月	2015年 3月	2016年 3月	2017年 3月	2018年 3月	2019年 3月
1株当り配当(円) (内1株当り 中間配当額)	4.50 (—)	2.00 (—)	1.00 (—)	10.00 (—)	18.50 (5.00)	21.00 (5.00)	未定 (5.00)



© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

2. 2018年度業績予想

・2018年度（下期）の概要（1） ・・・・・・・・・P15
・2018年度（下期）の概要（2） ・・・・・・・・・P16
・2018年度業績予想 ・・・・・・・・・・・・・・・・・P17

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

2018年度（下期）の概要（1）

引き続き恵まれた市場環境は継続するものの、能力増強を行った他社との競争激化や資材価格・輸送費の上昇が想定されるが、当社グループは、新規物件の確実な受注に努め、引き続き全社最適生産に取り組むと共に徹底した原価低減対策を実行し、収益確保に努めます。

・営業活動強化により需要を確実に捕捉すると共に、全社生産調整による各工場の連携強化、安定生産を継続する。

・ハイブリッド建材を中心とした土木製品の差別化製品の開発、展開を進めると共に、既存の大型・特殊製品の技術提案力を強化する。

・大型セグメント案件の本格的出荷の開始。
製品の効率的な輸送・出荷に向けて、運行管理システムにより出荷業務を一括管理すると共に、輸送費のミニマム化を図る。

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

2018年度（下期）の概要（2）

製造子会社（ジオファクト）

・ジオスター㈱と一体となり労働生産性向上とコスト縮減を図ると共に、技術力をさらに強化し、 収益力向上に繋げる。

海外事業

・安定的収益確保に向けて営業力強化、生産管理能力の向上に取り組む。

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

2018年度業績予想

先行きについても補正予算の効果を受け、底堅く推移することが見込まれる。今後も、営業力、製造力、商品力からなる事業力の更なる向上と、人材、品質、安全、環境、コンプライアンスなど事業基盤の整備を通じて総合競争力を強化すると共に、事業環境の変化に適切に対応し安定した収益構造の構築を図る。

（単位：百万円）

	2017年度 実績				2018年度 業績予想				差異		
	上期 ①	下期 ②	通期 A	比率	上期実績 ③	下期見通し ④	通期 B	比率	前年上期対比 ③−①	2018年上・下対比 ④−③	通期対比 B−A
売上高	14,263	19,377	33,640	100.0%	13,434	22,366	35,800	100.0%	△ 829	8,932	2,160
営業利益	1,365	2,022	3,387	10.1%	966	1,834	2,800	7.8%	△ 399	868	△ 587
経常利益	1,363	2,024	3,387	10.1%	964	1,836	2,800	7.8%	△ 399	872	△ 587
親会社株主に帰属する当期純利益	900	1,298	2,198	6.5%	643	1,157	1,800	5.0%	△ 257	514	△ 398
配当（円）	5.00	16.00	21.00	−	5.00	未定	未定	−	0.00	−	−

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

参考資料

・今後実行される主なプロジェクト

・ジオスターの地下空間

　セグメント製品

　土木製品

・新製品開発

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

今後予定される主なプロジェクト

1.リニア新幹線
概要：東京と名古屋を結ぶ高速鉄道
区間：品川～名古屋
シールドトンネル区間：品川側約40キロ　名古屋側約20キロ
完成予定：2027年

2.枚方トンネル
概要：新名神高速道路
枚方市域の地下部を通過するシールドトンネル
区間：大阪府枚方市～京都府八幡市
トンネル区間：約3キロ（上下線合わせて約6キロ）
完成予定：2023年

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

3.北海道新幹線

概要：新函館北斗～札幌を結ぶ新幹線工事

区間：札幌駅～手稲トンネル

延長：約8キロ

完成予定：2030年

4.鹿児島東西道路

概要：鹿児島ICと鹿児島中心市街地を結ぶ道路

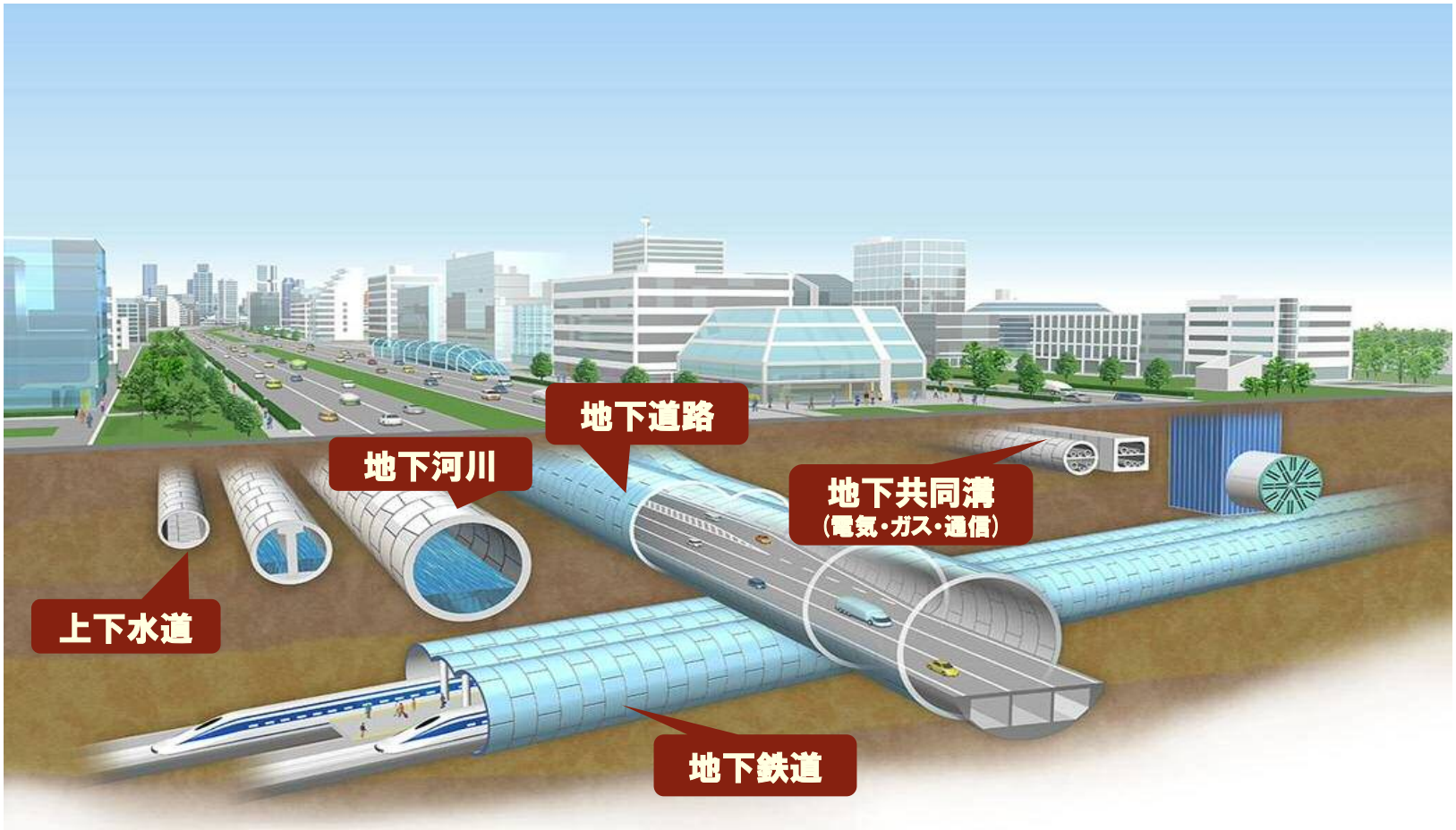
区間：田上IC～甲南IC（仮称）

トンネル区間：下り線2.3キロ

完成予定：未定

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

ジオスターの地下空間

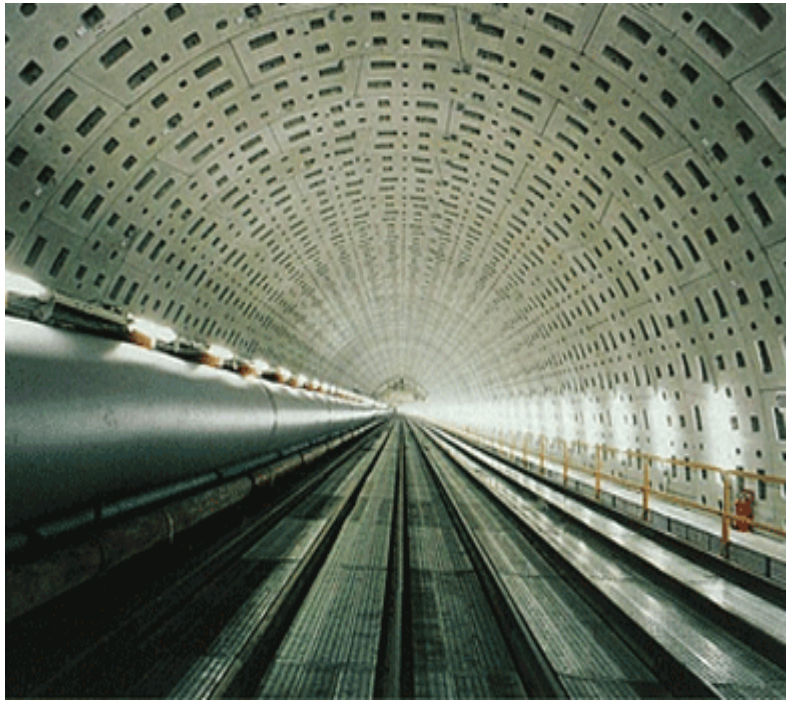


© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

セグメント製品

●RCセグメント
●スチールセグメント

●CPセグメント
●HCCPセグメント
●NMセグメント



© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

土木製品

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

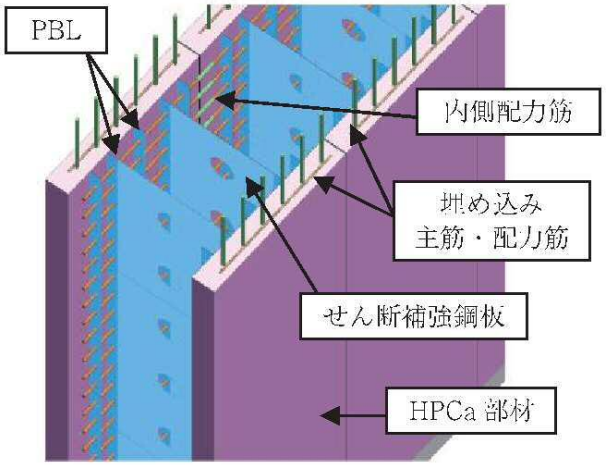
土木製品

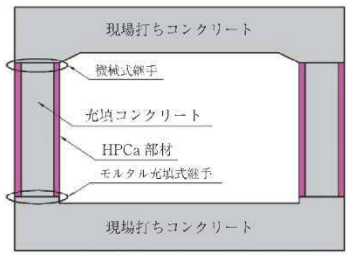
●ボックスカルバート
●アーチカルバート
●L型部材
●共同溝
●防潮堤
●モジュラーチ
●ビッグボックス
●矢板
●スラブ

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

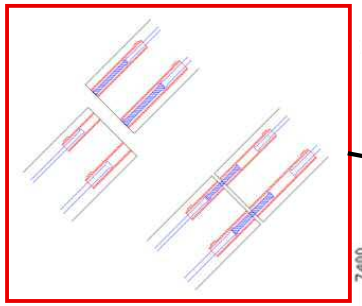
新製品開発

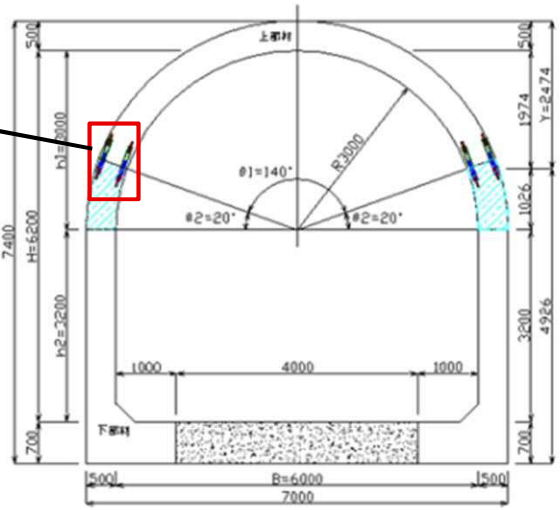
ハイブリッド
ハーフプレキャスト側壁

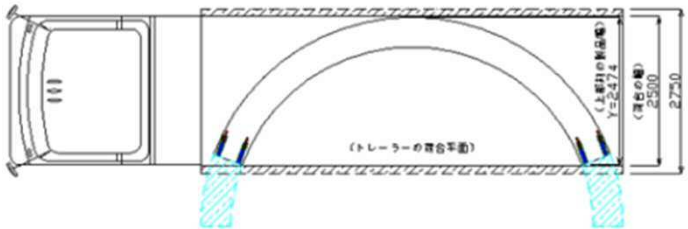




曲線用継手



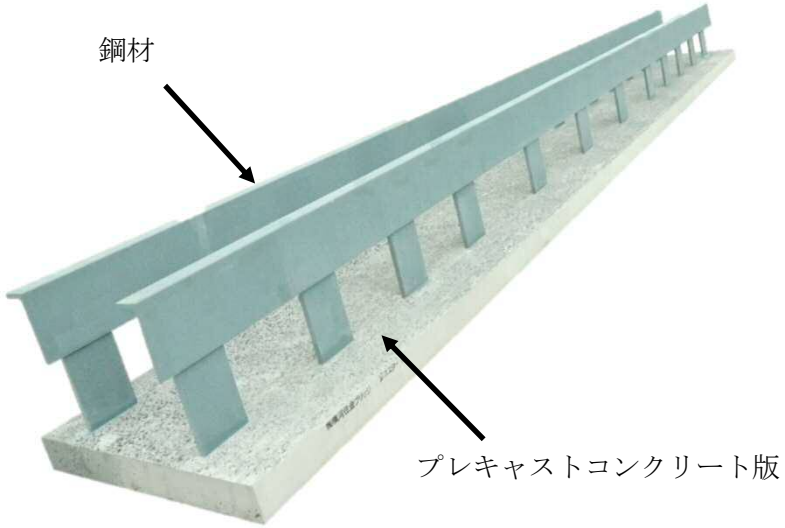




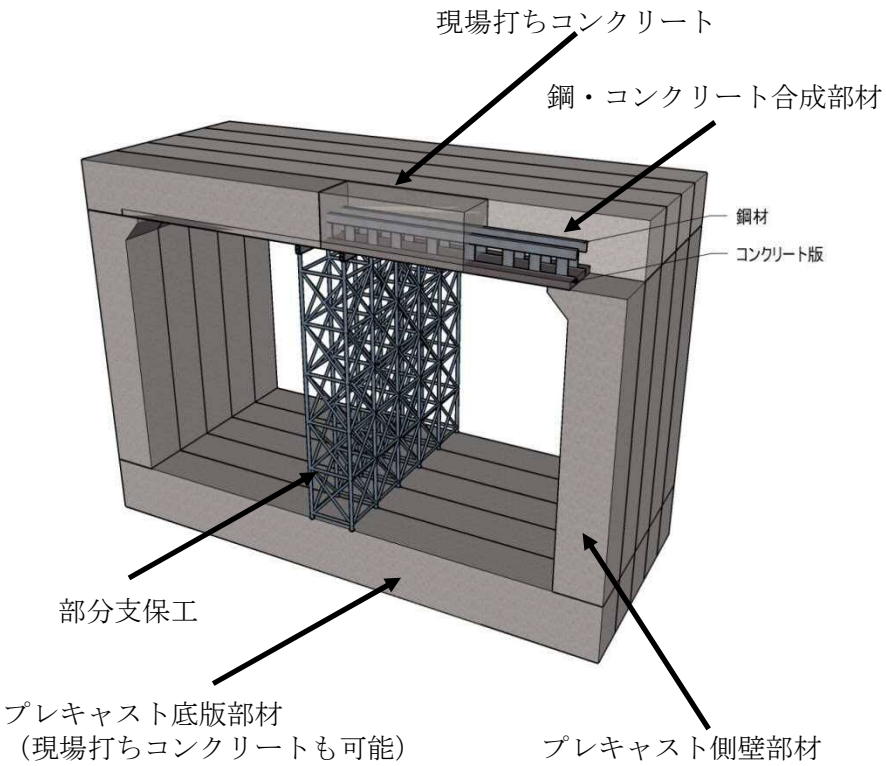
© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

新製品開発

ガッチリフォーム



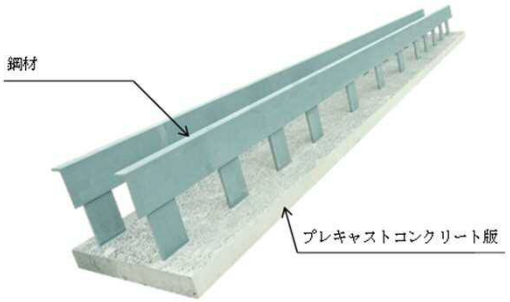
ジャンピングカルバート

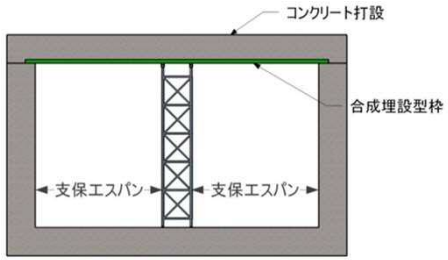


© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

新製品開発

合成埋設型枠





合成埋設型枠とは

鋼材とプレキャストコンクリートからなる構造で、コンクリート構造物の建設において用いる埋設型枠です。現場では、図の合成埋設型枠の上部に鉄筋を配置してコンクリートを打設することで、コンクリート構造物の建設を行います。特にボックスカルバート等の地下構造物のスラブの構築においては、従来工法として型枠工・支保工等（コンクリート打設による下からの支え）に多くの時間と労力が必要となります。この建設における省力化と工期短縮および品質向上を目的に以下の特徴を有する合成埋設型枠の開発を行いました。

上部に鋼材を用いることで全体剛性が向上し、支保工（下からの支え）のスパンを長くすることが可能となりました。そのため、支保工の占用面積が大幅に削減されることで、他工種における資材の運搬通路等への使用が可能となり他の作業と同時に建設を行うことが出来ます。その結果、現場における工期短縮にも繋がります。さらに、当該型枠は、取外しが不要であり従来工法と比較して省力化が図れます。この様な特徴を有することで、近年、建設業界で求められている生産性向上（i-Construction）に貢献いたします。

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、資料作成時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害につきましても、当社は一切責任をおいません。

© 2018 GEOSTR CORPORATION, All Rights Reserved.